

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取 組 分 野：【交流】、【女性・若者の力】

1. 都道府県、市町村 広島県^{あきたかたし}安芸高田市

2. 事業 者 名 住民自治組織 川根振興協議会

3. 取 組 みの 名 称 「住民自治」
- 「もやい」の心で安心して暮らせる農村をめざして -

4. 取 組 概 要 等
概 要

昭和40年代からの高度成長期における人口流出が加速していく中、昭和47年7月、未曾有の大洪水により川根地域は破滅的な災害を受け、陸の孤島と化し、過疎に一層の拍車がかかった。そのような状況下、同年の2月に結成された「川根振興協議会」は、振興会援助班を編成し、被災家屋の片付けや消毒作業など災害復旧活動に活躍した。

被災を契機とした災害復興への強い意志と、過疎化・高齢化による地域の将来への危機感から、地域発展のための広範な活動を開始した。

現在、旧川根村全戸加入（264世帯）・区域内全団体を構成員として組織し、川根に気持ちよく住み続けるため、誇りと自信を持てるふるさとづくりを進めている。

廃校となった中学校の跡地活用の際に、企画段階から振興会が関わり、郷土料理を提供する交流宿泊施設として整備された「エコミュージアム川根」の運営は振興会が行い、県内外から年間4,000人余の利用者がある。また、群舞するホタルの生育環境を守るとともに「人の流れ」から「小さな経済」に繋ぐことを目的に開催している「ほたるまつりin川根」には、ほたる鑑賞とともに散策する道沿いの地産地消屋台の「農家庭先味めぐり」、神楽など伝統芸能の披露等により、一日で5,000人余が訪れている。

地域の生活を守るための取組として、JAの撤退により廃止された小売店及びガソリンスタンド施設を譲り受け、住民出資による「ふれあいマーケット」「ふれあいスタンド」として運営している。また、安心して住める地域づくりのために、1人1日1円募金を実施している。

この募金を財源に1人暮らし高齢者の訪問活動を続けている。他にも、サテライト型デイサービスや小学生と高齢者の文通等、地域に包まれて生活できる環境が整備されつつある。また、地域の担い手の確保のため、設計に入居者が参加でき、月3万円の家賃を20年納め、百数十万円の土地代などを払えば持ち家となる仕組みの「お好み住宅」を提案した。地域活動への参加や義務教育の子供がいること等を条件に募集を行った結果、16世帯73人がU・Iターンで入居している。

その他、個人や集落だけでの農地の維持管理が困難となったため、19集落全体の農地の荒廃を防ぎ、農のある空間を維持するため「営農環境委員会」を設置し、地域全体で農地を守るなど、地域の課題解決のために皆で取り組む活動を続けている。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
売り上げ	24,884	21,968	26,312	22,161	20,758
解説	単位：千円 エコ・ミュージアム川根				
来客数	4,485	4,429	5,469	4,434	4,539
解説	単位：人 エコ・ミュージアム川根				
雇用者数	18	18	18	17	14
解説	単位：人 エコ・ミュージアム川根				

項目		H13	H14	H15	H16	H17
イベント 回数	解説	3	3	3	3	3
		単位：回 ほたるまつり、せいりゅう祭、はやし田植え				
イベント 参加者	解説	4,000	6,000	8,000	6,000	8,000
		単位：人 ほたるまつり、せいりゅう祭、はやし田植え				

活用している地域資源

豊かな田園環境、農のある生活空間の保全を基とした「自然と人の共生」を地域の理念としている。

- ・オオサンショウウオが棲み、ホタルが舞う水環境
- ・水田に生える赤瓦に白壁の農家住宅等の農村景観
- ・神楽、棒術などの伝統芸能

地域活性化のポイント

川根振興協議会の活動は、生活を支える店舗の運営や福祉活動、担い手の確保や農地の維持に止まらず、道路改良や河川改修などの公共事業用地の確保についても、地域理念をもとに地域の景観保全を考慮しながら、振興会が事業提案を行い、そのために必要な用地の調整を行っている。

自ら提案し、責任を持って行動する活動が、地域内の多くの住民の参加によって支えられている。

川根に気持ちよく住み続けるため「共に考え、悩み、行動する」という自治意識が育まれている。活動の基底にあるのは、おたがいさま・おかげさまとした「もやい」の心である。

地理的条件は必ずしも恵まれていないが、山あいの農村での、田園、自然、伝統文化を守り、活かしつつ、支え合う地域活動の展開により、将来にわたって安心な川根の暮らしを目指す。

事業の今後の展開方向

地域を支えてきた農用地や伝統文化等の保全、利活用を図り、もやい（農・魚をとおしで支え合う）の精神により、誰もが出番のある地域活動の展開と集落間の連携を高めるとともに、支え合う福祉活動充実と継続を図り、一層の安全・安心の確保を図る。

経済活動では、特産の「ゆず」製品の拡販と生産の強化を図り、産直市への出荷体制の整備と地域に見合ったコミュニティビジネスの展開等を行うとともに、エコミュージアム川根を核とした交流活動を引き続き推進していく。

また、団塊世代の活動の場の確保とその受け皿の確保対策を推進し、「二地域居住」等の新たな居住形態への対応も進める。

これらの総合的な「地域力」により、住み続けるための安心と自信と誇りを創りあげていく。

